

平成 29 年度 洗淨技術検定試験 2 級 模擬問題

1. 「炭化水素系洗淨剤用洗淨機」に関する①～④の記述の中から正しいものを一つ選びなさい。

- ① 常圧下で脱脂洗淨の効果を上げるため、90℃以上に液温を上げて洗淨した。
- ② ろ過装置で使用するポンプには、防爆式を使用する必要は全くない。
- ③ 洗淨液の温度を上げる加熱装置は、スチーム、熱媒体油などを使用する間接加熱装置を使用するのが望ましい。
- ④ 洗淨液を常温で使用する場合、引火点以下であれば漏液しても問題ないので、ドレンパン(ドレインパン、オイルパン、液受けパン、などと云う場合がある)などは必要ない。

2. 「錆」に関する①～⑤の記述の中から最も正しいものを一つ選びなさい。

- ① 錆は金属と窒素との反応で生じる。
- ② 錆は金属と酸素との反応で生じる。
- ③ 錆は鉄のみに発生する。
- ④ 大気中で鉄表面に錆が発生するとそれ以上深く進行することはない。
- ⑤ 錆は金属特有のものではなく、樹脂などにもよく発生する。

3. 「ろ過フィルターの管理手法」に関する①～④の記述の中から正しいものを一つ選びなさい。

- ① 圧力計の指示値が上がるほどろ過循環量が増大する。
- ② 圧力計の指示値がある程度上がったら、ポンプを交換する。
- ③ 圧力計はポンプの寿命を判断する目安となる。
- ④ 圧力計の指示値がある程度上がったら、フィルターを交換する。

※注 圧力計はろ過フィルターの手前に設置されたものとする。

4. 「オゾン層保護法」で日本国内において現在産業用洗浄剤用途での生産を禁止されている物質を①～⑤の中から二つ選びなさい。

- ① 塩化メチレン
- ② 1,1,1-トリクロロエタン
- ③ トリクロロエチレン
- ④ CFC-113
- ⑤ HCFC-225

回答

問題	1	2	3	4
回答	③	②	④	② と ④